

写真が語る

常盤台のあゆみ

常盤台の街と写真館

令和8年度企画展
8月29日(土)～10月4日(日)

〔時間〕 9:30～17:00
(入館は16:30まで)

〔休館〕 月曜
(ただし祝日は開館し翌平日が休館)

入館無料



ごあいさつ

昭和初期に計画的に誕生した郊外住宅地・常盤台の歴史と、その街で人びとの暮らしを記録してきた写真館の役割に注目する展示です。

常盤台は、東武東上線の整備を背景に、昭和10年代から住宅地として、開発・分譲が進められ、「文化住宅」として新しい都市生活の場となりました。

こうした街の成立とともに、家族の姿や人生の節目を写真として残す役割を担ったのが常盤台写真場です。常盤台一丁目に昭和12年(1937)に建てられた常盤台写真場は、住居を兼ねた写真館として、人びとの家族写真や記念写真を数多く撮影してきました。

本展では、地域に残された資料から常盤台のかつての街並みを紹介するとともに、常盤台写真場で使用されていた写真機材を通して、写真が人びとの生活や記憶とどのように結びついてきたかを明らかにします。

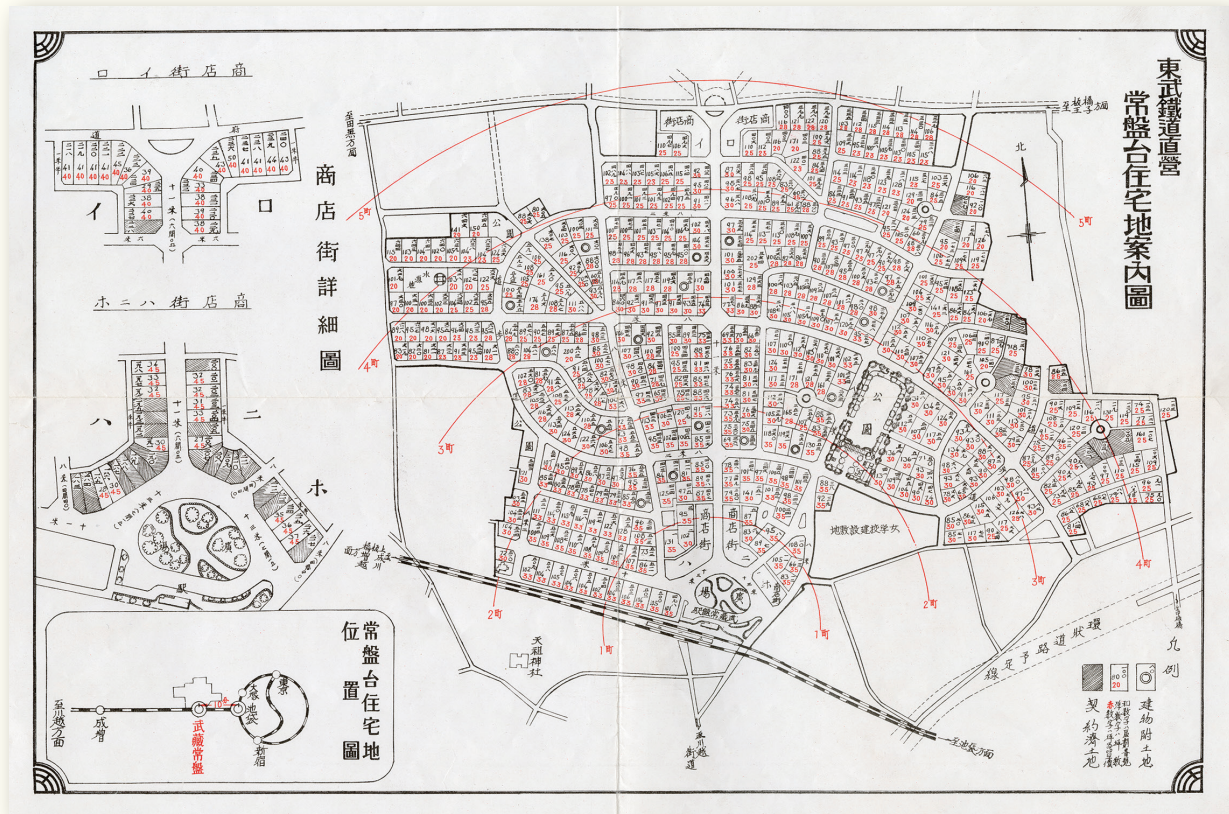


凡 例

- ・このパンフレットは、令和8年8月29日(土)から10月4日(日)までを会期とする企画展「常盤台の街と写真館」のパンフレットである。
- ・所蔵表記のない資料は、板橋区立郷土資料館所蔵である。
- ・資料保存の観点から会期中の展示を変える可能性もある。
- ・このパンフレットの執筆は板橋区立郷土資料館学芸員の細縦雄貴が担当した。

常盤台住宅の開発 ～計画された新しい街～

現在の常盤台一・二丁目に広がる常盤台住宅は、東武鉄道によって開発された郊外住宅地です。この土地は、もともと東上線と伊勢崎線を結ぶ計画に伴う操車場用地として取得されましたが、接統計画が見送られたため、住宅地として活用されることになり、昭和11年（1936）頃から分譲が始まりました。

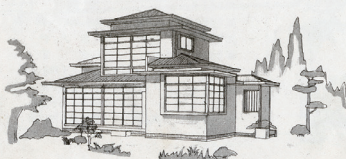
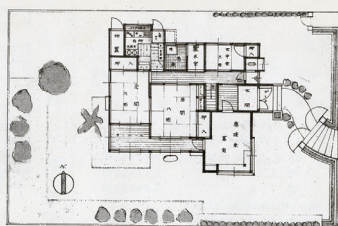


東武鉄道直営常盤台住宅地案内図
昭和11年（1936）【山下徹氏所蔵】

278

出品者 東武鉄道株式会社
本所蔵小冊一丁目二番地

敷地	99.260坪
建物	24.750坪
二階	7.000坪
賃金 (土地、建物、門、塀、車庫共)	6,553.00円
内金	1,353.00円
残金	5,200.00円
残金十五ヶ年間減月賦拂	
第壹年度各月御拂込高	541.4円
第貳年度各月御拂込高	523.7円
第拾壹年度以後各月御拂込高	347.2円



東武直営常盤台住宅地御案内
昭和11年（1936）【山下徹氏所蔵】

街路計画を手がけたのは、内務省の建築技師・小宮賢一です。小宮は、駅前ロータリーから延びる幹線道路と環状道路を組み合わせ、プロムナード（緑地や街路樹を取り入れた道路空間）、クルドサック（道路の奥がロータリーになっており、折り返しができる袋小路）などを配置しました。また、学校、公園、商店街などを設け、住宅地の中で日常生活を営める街をめざしました。

建物には、用途や高さ、敷地に占める割合、生垣などを定めた「建築内規」が設けられました。近代的な暮らしを象徴する「文化住宅」が建ち並び、良好な住環境と統一感のある街並みが形づくられました。こうして常盤台は、住宅を並べるだけでなく、人びとの暮らし全体を考えてつくられた「計画された新しい街」として誕生したのです。

常盤台の街 ～暮らしを支えた祈りと学びの場～

常盤台住宅の開発が進み、人びとが移り住むようになると、住宅だけでなく、地域のよりどころや子どもたちを育む場所も、街の暮らしに欠かせない存在となりました。古くから地域の信仰を支えてきた天祖神社、幼児教育を担った帝都幼稚園、そして地域の子どもたちが学んだ常盤台小学校。それぞれの場所は、世代を超えて人びとを結びつけ、常盤台という街の歩みを支えてきました。

ときわ台天祖神社

～地域の歴史を伝える鎮守～

天祖神社は、常盤台住宅が誕生する以前から、上板橋地域の信仰を支えてきた神社です。創建については、鎌倉時代の康元年間とする伝承や、この地に現れた天照皇大御神をまつたことに始まるという伝承があります。新しく住宅地が形成された後も、地域のよりどころとして人びとの暮らしに寄り添ってきました。江戸時代までは「神名宮」と称されていましたが、明治時代に入ると「神名社」と呼ばれるようになり、明治6年(1873年)には「天祖神社」へと改称されました。

また、常盤台の地名は、天祖神社の境内にあった「常盤の松」に由来すると伝えられています。



大正初期の天祖神社の拝殿と神楽殿
【ときわ台天祖神社所蔵】

帝都幼稚園

～新しい街に生まれた幼児教育の場～

帝都幼稚園は、常盤台住宅の開発が進んでいた昭和12年(1937)、帝都学園女学校とともに開設されました。一時閉鎖された後、昭和24年に再開され、地域の子どもたちを育む場となりました。昭和26年には、常盤台小学校の開設にあたり、敷地の大半が学校用地として提供されています。

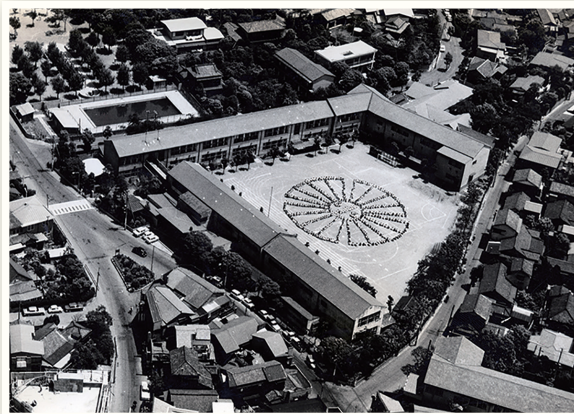


帝都幼稚園 【板橋区公文書館所蔵】

常盤台小学校

～街の発展とともに歩んだ小学校～

常盤台小学校は、住宅地の発展と児童の増加を背景に、昭和26年7月1日に開校しました。校地には帝都学園から提供された土地が用いられ、上板橋小学校から職員や児童の一部が移りました。地域の子どもたちが学び、交流する場として、戦後の常盤台の歩みを支えてきました。



常盤台小学校 【板橋区公文書館所蔵】

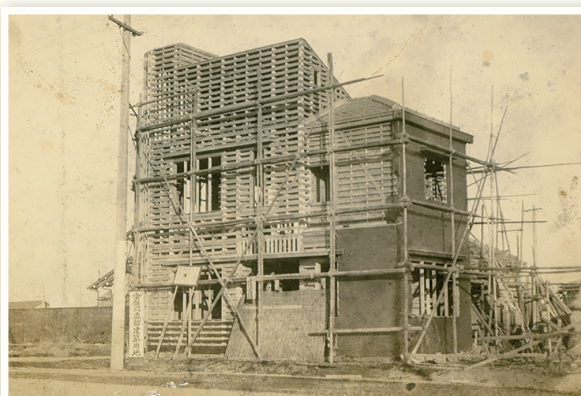
常盤台写真場 ～新しい街とともに歩んだ写真館～

常盤台写真場を開いた田中藤二郎は、明治36年(1903)に山形県上山で生まれ、15歳で上京して本所の青山写真館に弟子入りしました。撮影や写真修整の技術を身につけ、関東大震災後には再建された写真館の経営を支えました。

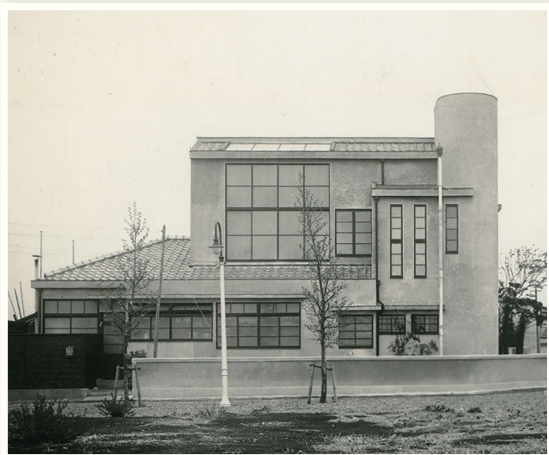
その後、独立を考えた田中は、開発が進んでいた常盤台住宅を訪れ、整った街路や電気・ガス・水道を備えた住環境にひかれます。昭和11年(1936)に駅近くの土地を購入し、翌年、住居を兼ねた常盤台写真場を建設し、常盤台の最初の住民として引っ越しました。建物には、自然光を取り入れるために勾配のある天井や壁面には全面摺りガラス窓が設けられ、昭和12年(1937)5月5日に開業しました。



常盤台写真場建設予定地
昭和12年(1937)以前 【個人蔵】



建設中の常盤台写真場
昭和12年(1937)2月 【個人蔵】



完成後の常盤台写真場
昭和12年(1937)3月 【個人蔵】



完成後の常盤台写真場
【個人蔵】

写真場では、家族写真や結婚写真、証明写真などを撮影したほか、学校行事や遠足、修学旅行、地域行事の出張撮影も行いました。戦時中は材料不足などにより営業が制限されましたが、戦後は家族や従業員とともに再開しました。常盤台写真場は、人びとの人生の節目と街の歩みを写真に残し続けた、地域の記憶を伝える場所です。平成9年(1997)、創業時の建物は江戸東京たてもの園へ移築・復元されましたが、その後も常盤台で写真店として営業を続け、令和6年(2024)6月10日に閉業しました。

写真機材 ～光を写し、記憶を残す道具～

常盤台写真場は、スタジオでの写真撮影のため大型カメラであるアンソニー型カメラを使用していました。撮影の際は、天井や壁面の摺りガラスから自然光を取り入れていました。天候や時間によって光が足りないときには、タングステン照明も併用していました。



常盤台写真場スタジオ写真 【個人蔵】

撮影にはフィルムのほか、昭和30年代初め頃までガラス乾板も使われていたといえます。撮影後は暗室で現像し、ネガを水洗して乾燥させ、印画紙に焼き付けました。学校行事など大量の写真を扱う際には、二階の写場に模造紙を敷き、その上に水洗したネガを並べ、家族総出で作業したと伝わっています。

また、写真の仕上がりを整える修整も写真館の大切な仕事でした。常盤台写真場に残されたカメラや乾板、現像・修整の道具は、一枚の写真が完成するまでに重ねられた、写真師と家族の仕事を今に伝えています。

常盤台写真場で使っていた写真機材

【江戸東京たてもの園所蔵】



インスタントカメラ



ゼンザブロンカ S2 前期型



大判カメラ



ストロボ

写真に残る暮らし ～1枚の写真から見える常盤台～

新しい住宅地として誕生した常盤台に人びとが移り住み、家族の暮らしが始まりました。子どもの成長や入学、結婚、地域の行事など、さまざまな場面が写真に残されていきます。常盤台写真場が撮影した記念写真と、地域や家庭で大切に受け継がれてきた日常の写真。一枚一枚をたどると、そこに暮らした人びとの思い出と、移り変わる常盤台の姿が浮かび上がります。



武蔵常盤駅北口ロータリー
(現、ときわ台駅北口)
昭和25年(1950)頃
【常盤台一・二丁目町会旧蔵アルバム】



常盤台公園で行われた町会運動会 昭和時代 【個人蔵】



天祖神社秋季大祭 昭和41年(1966) 【個人蔵】



ときわ台駅北口ロータリー 昭和時代
【板橋区公文書館所蔵】

◆ エピローグ ◆ ～今も続く常盤台という街～

常盤台の街並みや生活のかたちは、時代とともに変化しましたが、常盤台写真場や地域に残された写真には、人びとの表情と街の歩みが刻まれています。住宅の開発や写真に残された記憶は、常盤台の歴史を今に伝え、これからの街へ受け継がれていくのです。



協力機関
(五十音順・敬称略)

江戸東京たてもの園
ときわ台天祖神社
常盤台バプテスト教会
ホビーストア「フジヤ」

協力者
(五十音順・敬称略)

板橋 克典
岩崎 忠雄
小林 美香
齋藤 慎一
島田 晴子
田中 幸子
田中 路子
中湖 康太
野崎 淑子
藤田 宏
堀江 雅弘
眞下 祥幸
山下 徹



～協力機関・協力者～

企画展	常盤台の街と写真館
編集	板橋区立郷土資料館 細縦 雄貴
発行日	令和8年(2026)8月29日
発行所	板橋区立郷土資料館 板橋区赤塚五丁目35番25号 電話 03-5998-0081 FAX 03-5998-0083
印刷製本	株式会社ワカプロ

